

令和5年度 江戸川区立松江第六中学校 学校関係者評価 最終評価報告書

学校教育目標	【開拓の心を身に付け、志をもち、自ら育つ生徒】 ・学び考える生徒 ・他を思いやる生徒 ・心身たくましい生徒	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	○生徒に学力を身につけさせるための授業の充実と遅れがちな生徒への学習支援 ○生徒が安全に活動でき、安心して落ち着いて学べる教育環境づくり ○生徒が自己実現でき、自分を成長させる機会や場の充実
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>・上級生が良い見本となり、学校が落ち着いた状態を維持できている。生徒は授業に集中している。あいさつも全学年できている。 ・学校行事は3年生が手本となり下級生を引っ張っている。・安定した小中連携ができている。 <課題>・学力の2極分化が進んでいる。全体的に家庭学習が不足しているため、学力的に低い生徒へ学習意欲を高めさせ、学力を向上させること。 ・不登校生徒や特別な配慮を要する生徒への対応を丁寧に行っていくこと。		

教育委員会重点課題	＜取組項目＞・評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価	来年度に向けた改善策
				取組	成果		
学力の向上	＜学力の向上＞ ・授業改善の推進、学習の基礎となる基礎・基本の確実な習得、家庭学習習慣に関する学校の組織的な対応による取組の実施・充実	・授業ユニバーサルデザインの徹底(学習環境の整備、ねらいやめあての提示、分かりやすい指示、まとめや振り返りの時間の確保等) ・コアスキルや特定の計画的な実施、不合格者へのサポート ・マイラインド(ドリルパーク)の活用 ・グループ活動でアウトプットをさせる授業、探究的活動を入れた授業の推進	・全国学力・学習状況調査において、国語・数学とCD層の割合が東京都より少ない ・漢字・計算・スパンコンテストを全校及び学年で1回以上実施する ・ドリルパークコンテストを1回以上実施する ・ドリルパークを終了する生徒90%以上。	B	B	○授業ユニバーサルデザインへの学校を挙げての取組は評価できる。 ○多くの授業で、グループで発表したり、意見を言い合う場面があり、アウトプットに繋がっていると思われる。 ○補習や学習教室へC・D層の生徒が参加する仕掛けづくりが必要である。	・ドリルパークの取り組み方について習慣化させる工夫が必要である。 ・タブレットによるスベリアル学習等、C・D層の生徒へのアプローチを工夫していく。 ・補習や学習教室へC・D層の生徒が参加する仕掛けづくりが必要である。
	＜読書力の更なる充実＞ ・読書を通じた探究的な学習の実施・充実	・情報端末や通信ネットワーク等の効果的な活用 ・多様な視点から物事を考え、判断し、表現する能力の育成 ・社会や世界に対する興味や関心を深め、自ら立てた課題を主体的に追究する態度の育成 ・情報収集力・プレゼンテーション能力の育成	・図書館利用者延べ1000人以上 ・全生徒が読書成果物(文化祭等で展示する)を生かして探究活動の本場を使って調べ、事後に掲示物を作成したり、プレゼンテーションを行った。 ○新しい書架が入り、図書館職員を活用して利用しやすい図書館づくりを進めている。 ○図書館利用者を増やすための工夫が足りなかった。	B	B	○各学年の調べ学習の成果物は廊下に整然と掲示されていてとても良い。生徒それぞれが課題を設定し、それを追究して見応えがある。 ●中学生の読書離れが進んでいる。読書を促すための仕掛けが必要である。 ○「〇週間」や「ピリオナル」のような企画を考えさせ、読書を促すための仕掛けを考える。	・調べ学習の成果物については、個々が工夫を凝らした丁寧な作りで、高評価を得ている。 ・情報端末については自分の考えを裏付けたり、資料を引用したりする場面でも今後積極的に使っていく必要がある。 ○「〇週間」や「ピリオナル」のような企画を考えさせ、読書を促すための仕掛けを考える。
	＜教員の授業力向上＞ ・研究授業、部教委訪問等を通じた、教員の授業力、指導力の向上	・管理職による授業観察と研究授業年一回 ・授業観察・部教委訪問等を通じた、教員の授業力、指導力の向上 ・教科指導員・若手教員育成員を活用した授業力向上	・生徒アンケート授業での先生の説明は分かりやすい90%以上 ・授業アンケート「本校職員は分かりやすい授業を行っている」90%以上	B	B	○管理職・部の教科指導員・若手教員育成員の授業観察により、若手教員が指導力向上を遂げた。 ○校内研修の中で授業を各単元ごとに実施し、授業力向上に繋がった。 ●ヒツパの研究のため、教員の力が凝縮して深まってきた。	○管理職だけでなく、授業を互いに見合う機会があるのは、大きな学びにつながる。
体力の向上	＜運動意欲や基礎体力の向上＞ ・毎回の体育授業時の種目別の補助運動の実施 ・小中連携での「持久力」向上のための動きかけ	・体力テストにおける目標値の提示 ・自身の昨年の体力合計点が区平均以上 ・自身の昨年の体力合計点が昨年度を上回る生徒が80%以上	B	B	○全7項目中、中1男子6項目、中2男子6項目、中3男子4項目、中1女子4項目、中2女子4項目、中3女子3項目で区平均を上回った。 ○持久走は全学年男子、中2女子が東京都の平均を上回った。 ●男子は長体前屈(柔軟性)、女子は反復横跳び(敏捷性)に課題がある。	○引続き保健体育の授業前に補助運動を行うこと、柔軟性・敏捷性を意識したプログラムを加えて体力の向上を図る。 ●柔軟性・俊捷性を授業の中だけで向上させていくのは難しいと思われる。	
	＜健康やかな体の育成＞	・基本的な生活習慣の徹底・身だしなみや正しい姿勢の指導 ・平和でよりよい社会の構築を目指す態度の育成、自己の最善を尽くす態度の育成、職業性に関する正しい知識の定着	・保護者アンケート「本校は、あいさつをはじめ基本的な生活習慣や規範意識が身に付くような指導をしている」90%以上	A	A	○本校は、あいさつをはじめ基本的な生活習慣や規範意識が身に付くような指導をしている。肯定的評価が95.1%。	○来校した際に生徒があいさつを非常によくしてくれて印象がある。
共生社会の実現に向けた教育の推進	＜特別支援教育の推進＞ ・ユニバーサルデザインの視点を取り入れた個に応じた指導の実施・充実 ・エンカレッジルームの活用促進 ・副籍交流、交流及び共同学習の実施・充実	・前方欄へのカーテン設置やスロータイマーの全教室設置等の環境整備 ・板書、指示等の工夫 ・エンカレッジルームの活用 ・副籍交流の推進	・生徒アンケート「授業のめあてや最後のまとめがあり、何を学習したかがはっきりしている」90%以上 ・何年アンケート「板書(電子黒板も含む)やプリントがわかりやすく理解しやすい」90%以上 ・エンカレッジルームでの活動について、全教職員で共有 ・副籍交流対象者への文書配布	B	B	○授業ユニバーサルデザインの研修を通して、分かりやすい板書、分かりやすい指示に努めている。 ○エンカレッジルームを誰がどのように使っているかをホワイトボードを職員室内に設置し、共有することができた。 ○副籍交流を計画通りに進めている。	○教室前方の欄のカーテンや、掲示物などいつも整えられている。 ○教師の発問や指示が分かりやすい。 ○良い授業であるが、清掃が行き届いており、学習環境が整えられている。 ●若干教室の照明が暗いところがある。
	＜多様性を育む教育の推進＞	・縦割り活動の充実 ・よき文化や伝統を将来に継承する意識の醸成 ・自他の違いを認め尊重する思いやりの心の醸成	・運動会・文化祭等における縦割り活動の推進 ・生徒会活動・部活動における異年齢集団の活動の充実	A	A	○運動会や文化祭を新たな取組を通して、とても良い縦割り活動ができた。 ○委員会・部活動も異学年同士で関わらな活動している。	○運動会の応援合戦は色別の縦割り活動で3年生がリーダーとなり下級生を引っ張って見応えのあるものだった。 ○合唱コンクールでのアドバイスも効果的であった。
子どもたちの健全育成	＜子どもたちの健全育成に向けた取組＞ ・不登校対策の実施・充実 ・教育相談の強化 ・hyper-QUの活用	・いじめアンケートの学期1回実施と担任面接 ・特別支援推進会議を情報共有型から支援提案型への移行	・保護者アンケート本校は、いじめや不登校、非行などの防止・解消に向けた指導に取り組んでいる 「本校は、個々の生徒の悩みを丁寧に聞くなど、教育相談の充実に努めている」90%以上 ・特別支援会議・生活指導部会を週1度行い、情報共有し対応を検討する	B	B	○職員としての未然防止の意識は高く、個々に生徒の変容をフォローし情報を共有している。 ○不登校生徒などにも繋がっていない「生徒はいじめ状況である。 ●学期に入り登校を促る生徒が増えている。 ●本校は、いじめや不登校、非行などの防止・解消に向けた指導に取り組んでいる」87.9%。「本校は、個々の生徒の悩みを丁寧に聞くなど、教育相談の充実に努めている」85.6%。	○どこにも繋がっていない生徒がないことは評価できる。 ○必ずしも登校することを目的とするのではなく、生徒が目標を持ち、将来的に自立できることが大切である。 ●多様な生徒の学び方について検討する必要がある。
	＜関係機関との連携の強化＞	・SC及びSSWとの情報共有・役割分担の強化 ・学校サポート教室との連携 ・保護司・民生児童委員との連携	・特別支援会議やケース会議を通じて情報を共有し今後の対応を検討する ・学校サポート教室への訪問・民生委員への情報提供	B	B	○SC、SSWと情報を共有することができた。 ●学校サポート教室との連携を強化する必要があるが、訪問がほとんどできている。	●小学校から継続して不登校である生徒の保護者に対して保護司や民生委員がどう関わることが難しい。 ●学校サポート教室へは訪問する機会をもつ。
地域に広く開かれた学校(園)の実現	＜自校(園)の取組の積極的な発信＞ ・学校(園)ホームページの充実等 ・学校(園)公開の実施・充実	・学校(園)の定期的な発行 ・学校ホームページの定期的な更新 ・tetoruによる情報発信	・月初めの学校だより発行及び配布 ・週一度以上のホームページの更新 ・tetoruを用いたのタイムリーな情報発信	A	A	○予定通り月初めに発行されており、ホームページに掲載している。また学校関係者・地域に定期的に配布している。 ○週一度のペースでホームページを更新している。今年度はアクセス数が昨年度より30000以上増えている。 ○必要な情報をtetoruで発信している。	○月初めの学校だよりや定期的に更新されるホームページを楽しんでいる。 ○さらに内容の充実性に努めている。 ○tetoruの活用の汎用性を高めている。
	＜学校関係者評価の充実＞ ・教育活動の改善・充実に向けた学校関係者評価の実施	・一人一台端末を活用した学校関係者評価の実施 ・学校へ足を運びやすい環境づくり	・年3回の学校評議員会の開催、授業参観 ・行事において実施していただく。学校の状況の説明・地域での生徒の様子や学校の評判等を聞き取る ・タブレットを用いたアンケートの実施	A	B	○予定通り学校評議員会を開催できている。 ○地域行事も多く開催され、管理職が顔を出すことにより生徒の評判を聞き取ることができている。 ●学校評議員の構成については今後検討が必要である。 ●学校評議員の教育活動への意見の聞き取り方も工夫が必要である。	○学校行事に招待いただき感謝している。 ●PTAを継続するために方策を講じる必要がある。 ●学校評議員の構成員については持続可能な基準を定める。 ・前もって資料を配布し、関係者評価に関わる評議員からの意見を述べてほしい工夫を、充実を図る。
	＜地域から変えられる生徒の育成＞	・挨拶、返事、感謝の言葉の大切さの指導 ・地域行事への積極的な参加 ・生徒の主体的な地域への発信	・防災訓練、六中まつり等の積極的な参加を促し、生徒の半数以上を関与させる ・地域の方々への行事の案内等を生徒に行わせる素地を育てる	B	A	○地域の運動会、祭り、六中まつり、ふるさとまつり、縦割りイベント等に多くのボランティアが参加した。 ●地域の防災訓練は定期考査前に参加することが確し	○多くの地域行事に生徒がボランティアで参加してきて感謝している。 ●防災訓練については開催日を定期考査の日程に合わせた工夫をする。 ○事前・事後アンケートより、学年によって傾向が違っており、アプローチを工夫していく。 ○フェースに対する苦手意識を克服するための講師を招聘し、生徒対面に運営を行う。 ○9年度で地域行事を育てるという視点を持ち、小中学校での学びや育ちの段階や連携状況を確認し合取組を行う。 ●教員での連携を一層前向きに図っていく。
特色ある教育の展開	＜情報活用能力の育成＞ ・全ての教育活動を通して、自分の考えや思いを他者につけたりと伝えることができる生徒を育てる	・授業において、アウトプットの時間を意図的に設ける。 ・行事や生徒会活動で前に出て発表する機会を多く作り、頭から自分の考えを述べ意識を醸成させる	・生徒90%以上にする	B	B	○全ての教育活動において、生徒がアウトプットする場面を意図的に設けて実施した。 ●自分の考えを相手につけたりと伝えられるようになった生徒は5〜11%増加した。90%に達していない学年もあった。 ●計画通り実施し、相互理解が深まった。 ●出前授業については教科の検討が必要である。	○学校の取り組みについては理解し、期待している。 ○予定通り小中連携を進めて欲しい。